

事業提案書要約

1. 対象国名	ウガンダ
2. 事業名	マダニ媒介感染症制御による畜産農家支援プログラム
3. 事業の背景と必要性	ウガンダは赤道直下に位置しながらも平均標高が1,100メートルを超えるために、気候は温暖で農畜産業に適している。労働人口の73%は農業従事者であり、GDPの約22%、輸出の80%を農産物が占めている。その中で畜産物は食用作物の次に重要な位置を占めている(農業GDPの7.5%を占めている)。しかしながら、畜産業の生産性は低く、国民一人当たりの食肉とミルクの年間消費量はそれぞれ6KGと23Lのみである。これは国連食糧農業機関(FAO)の推奨消費量の50KGと200Lには遠く及ばない。畜産業の生産性が低い主な理由の一つとして、家畜衛生管理の不備が挙げられる。畜産農家の多くは種々の感染症による被害に苦しんでいる。感染症の中でも、マダニ媒介感染症による被害が最も深刻である。したがって、マダニとマダニ媒介感染症対策は畜産農家の生産性向上を図る上で最優先の政策課題である。
4. プロジェクト目標	科学的根拠に基づいたマダニ駆除ならびにマダニ媒介感染症対策プログラムを構築し、対象農家の生産性を改善する。
5. 対象地域	Kiboga 県 Kapeke 郡、Lwamata 郡、Dwaniro 郡
6. ターゲットグループ	キボガ県の対象農家、キボガ県獣医事務所の獣医師・畜産技師、マケレレ大学の研究者
7. 生み出すべきアウトプット及び活動	<p><アウトプット></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象農家の家畜のマダニ吸血による直接的被害が軽減される 2. 対象農家の家畜のマダニ媒介感染症による間接的被害が軽減される 3. 獣医師・畜産技師・対象農家のマダニ駆除とマダニ媒介感染症制御に関する知識・技術が向上する <p><活動></p> <ol style="list-style-type: none"> 1-1. 質問票の作成と質問票による対象農家の飼養動物数、環境等の業務実態調査と対象農家のマダニ吸血による直接的被害に対するプログラム実施優先度の設定 1-2. 対象農家家畜のマダニ寄生率、寄生マダニ種の同定 1-3. 薬剤耐性、感受性試験の実施と推奨薬剤の選定 1-4. 推奨薬剤によるマダニ駆除および駆除作業後のマダニ寄生率、寄生マダニ種の同定 2-1. 質問票の作成と質問票による対象農家の飼養動物数、環境等の業務実態調査と対象農家のマダニ媒介感染症による間接的被害に対するプログラム実施優先度の設定 2-2. 対象農家家畜の採血 2-3. マダニ媒介感染症診断の実施と治療・予防法の提案 2-4. マダニ駆除の実施及び駆除作業後のマダニ媒介感染症診断 3-1. 獣医師・畜産技師に対するマダニ鑑別、薬剤耐性検査技術、マダニ媒介感染症診断技術・治療法・予防法および健康診断・健康管理法のトレーニング 3-2. プログラムの成果と SOP に基づくプログラム対象・非対象農家に対するセミナー・研修・啓蒙活動
8. 実施期間	2020年3月13日～2024年3月12日(4年)
9. 事業の実施体制	<p><日本側実施団体>帯広畜産大学原虫病研究センター</p> <p><ウガンダ側実施団体>マケレレ大学獣医学部、キボガ県獣医事務所</p>

